



GitHub Universe AFTER EVENT in Tokyo

2018.10.24@SHIBUYA

GitHub Universe AFTER EVENT

●概要

2018.10.16~17でSFで開催されたGitHub最大のカンファレンス(GitHub Universe)、様々なGitHubの新機能が発表されたイベントをうけてGithubの日本法人が実施した当該イベントのフォローアップイベント。当該イベントで発表された新規機能や、実際に参加したパネラーを交えてイベントの様子などを共有する、GitHubジャパンのプロモーションイベント。パネラーには元Google の及川卓也氏などが登壇されてイベントの様子などを解説された。(話がうまい)

●所感

今回のGitHub Universeは今後のGitHubのあり方を示すプロダクト(GitHub Actions)の登場により、今後のGitHubのあり方(これまでのソースコードを管理する場所)からプロダクトをインテグレーションする総合プラットフォームとなる予感があり、組織の枠を超えたプログラマのあり方、特に「インナーソース」[1]という考えについては共感するものが大きかった。

●参加人数 (AFTER EVENT)

100人ぐらい。枠があったので速いもん順。

●参加者層

実際にコードを書いているプログラマっぽい人が大半。マネージャーのような偉いっぽい人はいなかった。GTCは偉いっぽい人がかなり多く、イベントのターゲットがまったく違うんだなとオモタ。あくまで実際に手を動かしているプログラマがターゲットなのだ。

以下写真で簡単に概要を説明。

[1] <https://thinkit.co.jp/article/8404>

日本の代表マネージャーの挨拶



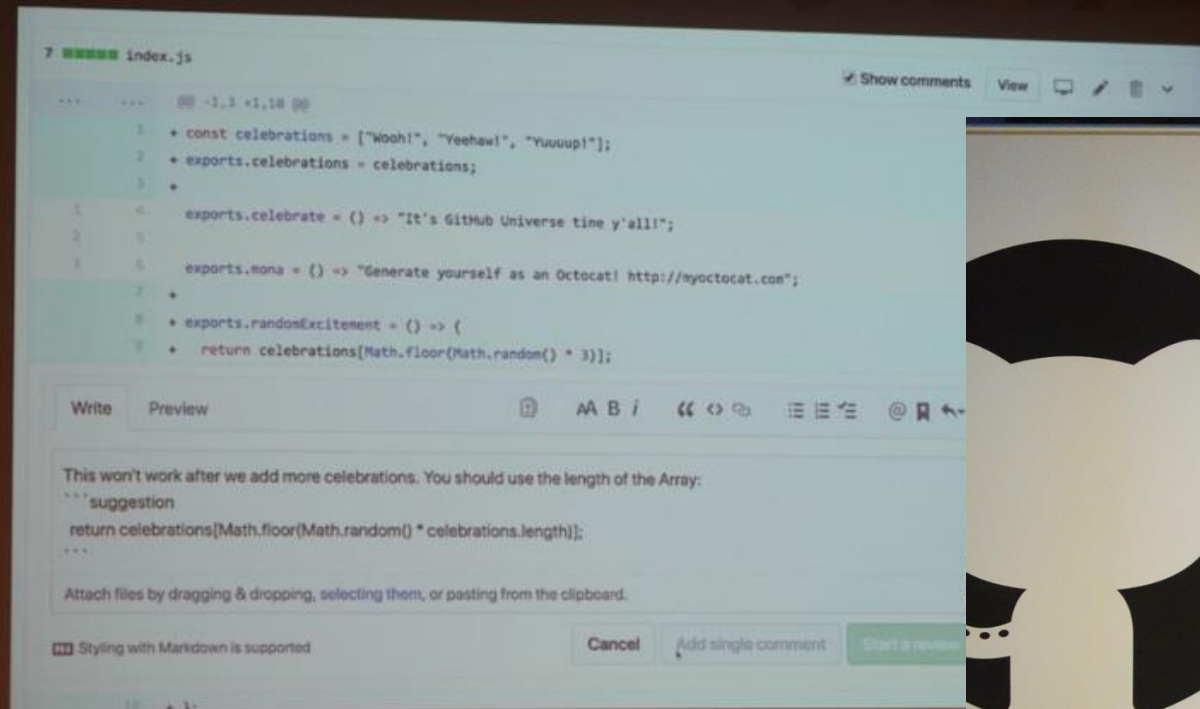
まず、最初に先日のGitHubの障害について謝罪。

あとMSの買収について、追加情報として欧州で買収の承認が降りたとのことで着々と進んでいるっぽい。

OSSへの寄与は実際はMSが一番多い点を強調されていた。昔のMSはOSSを毛嫌いしていたが今は違うようになったとのこと。

GitHubの新機能について紹介

PRでいきなり修正コードを記述し、修正できるようになったらしい。
(これ便利だわ) 前までコメントでこここう変えてと記述していた。



GitHubの新機能について紹介

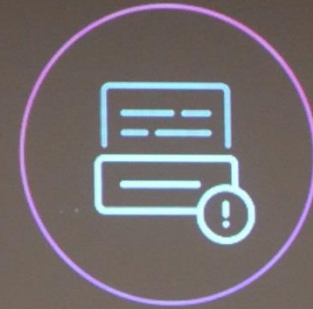
AWSなどの重要なTOKENをうっかりpublic公開してしまって高額請求されたというのがよくあるんだが、それをpush時にTOKEN っぽいものをスキャンする機能が実装（地味に便利）

```
class CloudClient
  TOKEN = "1313C15C22701F9FD383B7F7D69EFE7"

  def self.start
    CloudProvider.deploy(token: TOKEN)
  end
end
```



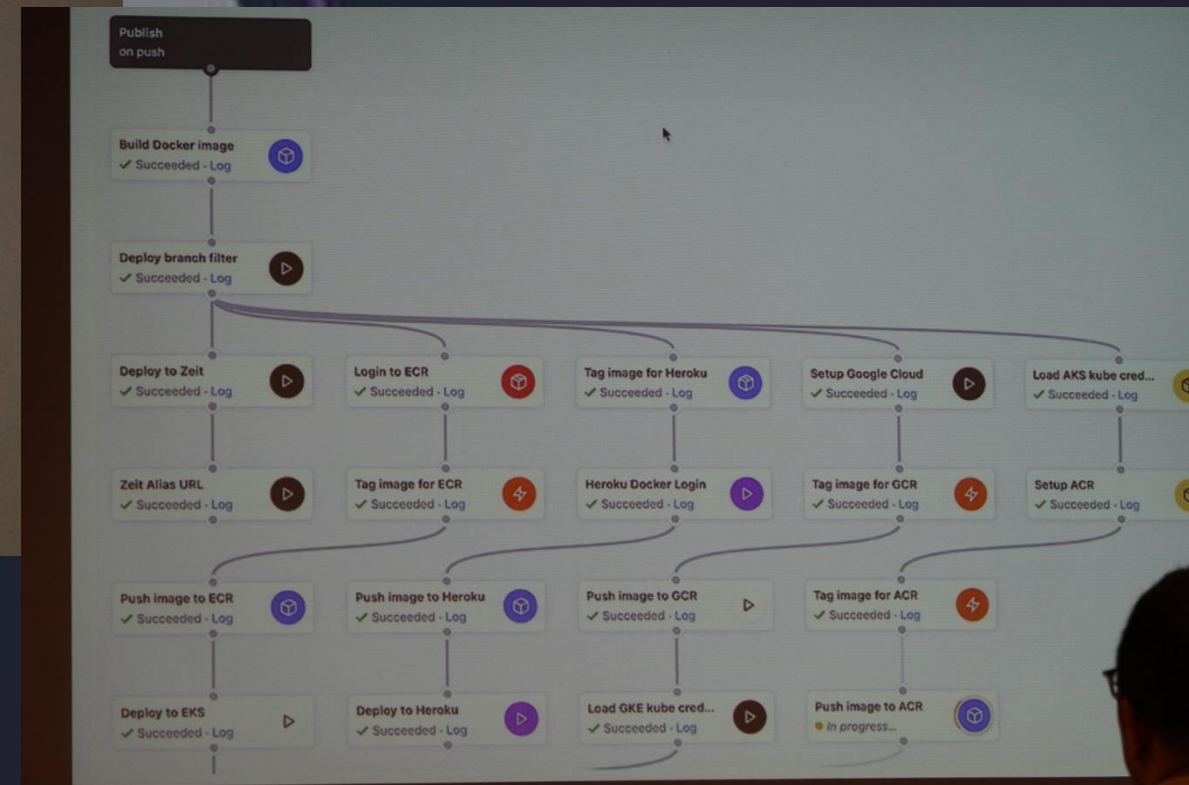
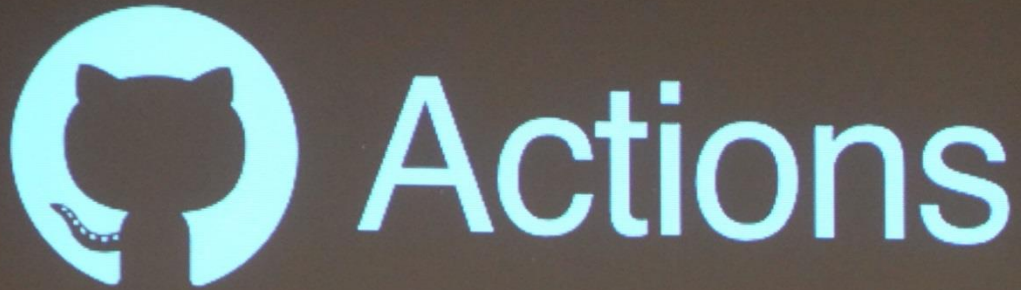
OAuth token found
We've noticed a valid OAuth token was committed in your repository. We've revoked the OAuth token for your repository.
Please contact us if you have any questions or concerns.



Token Scanning

GitHubの新機能について紹介

CircleCI のようにgithub に対してなにかのアクション(コードのpush)などを契機にコードのデブロイなどすべて自動でされる。 CircleCI でやっていることと同じようなことができる。



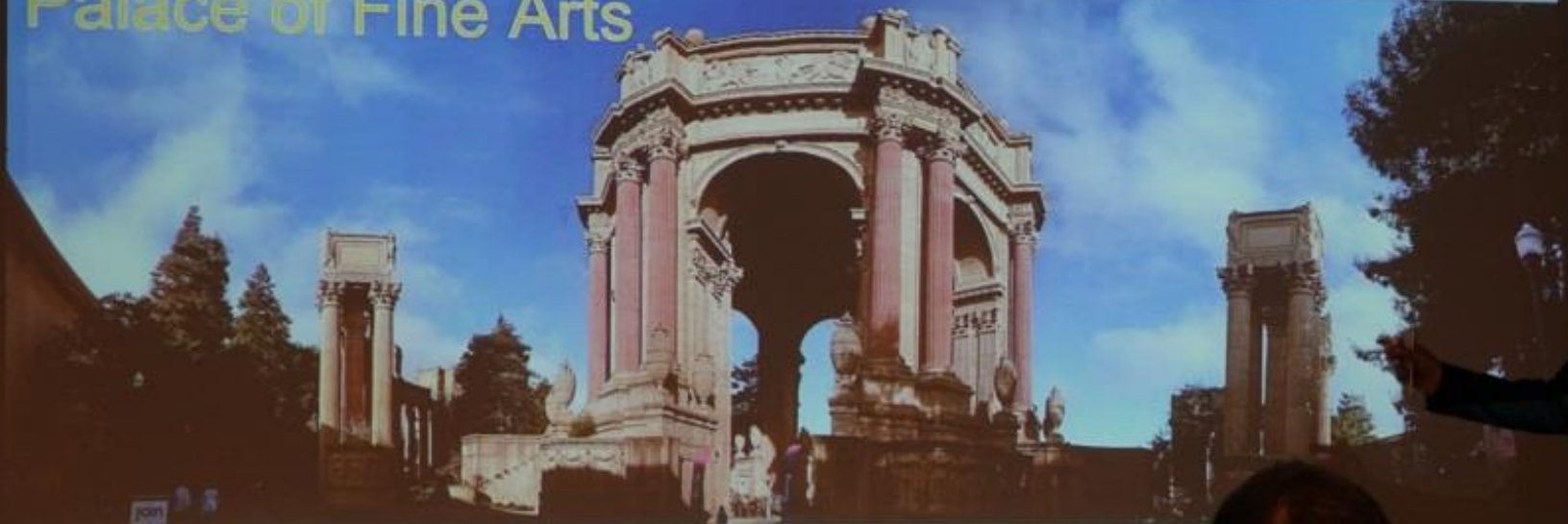
元Googleの及川氏からのGitHub Univの紹介 話がめちゃくちゃうまい



参加人数は1300人で少ないがそれがよい。

GitHub Universe概要

Palace of Fine Arts



会場: Palace of Fine Arts

参加者: 1,300名以上

YouTubeでのリアルタイム配信あり

SF郊外の美術館で開催

Photo Report

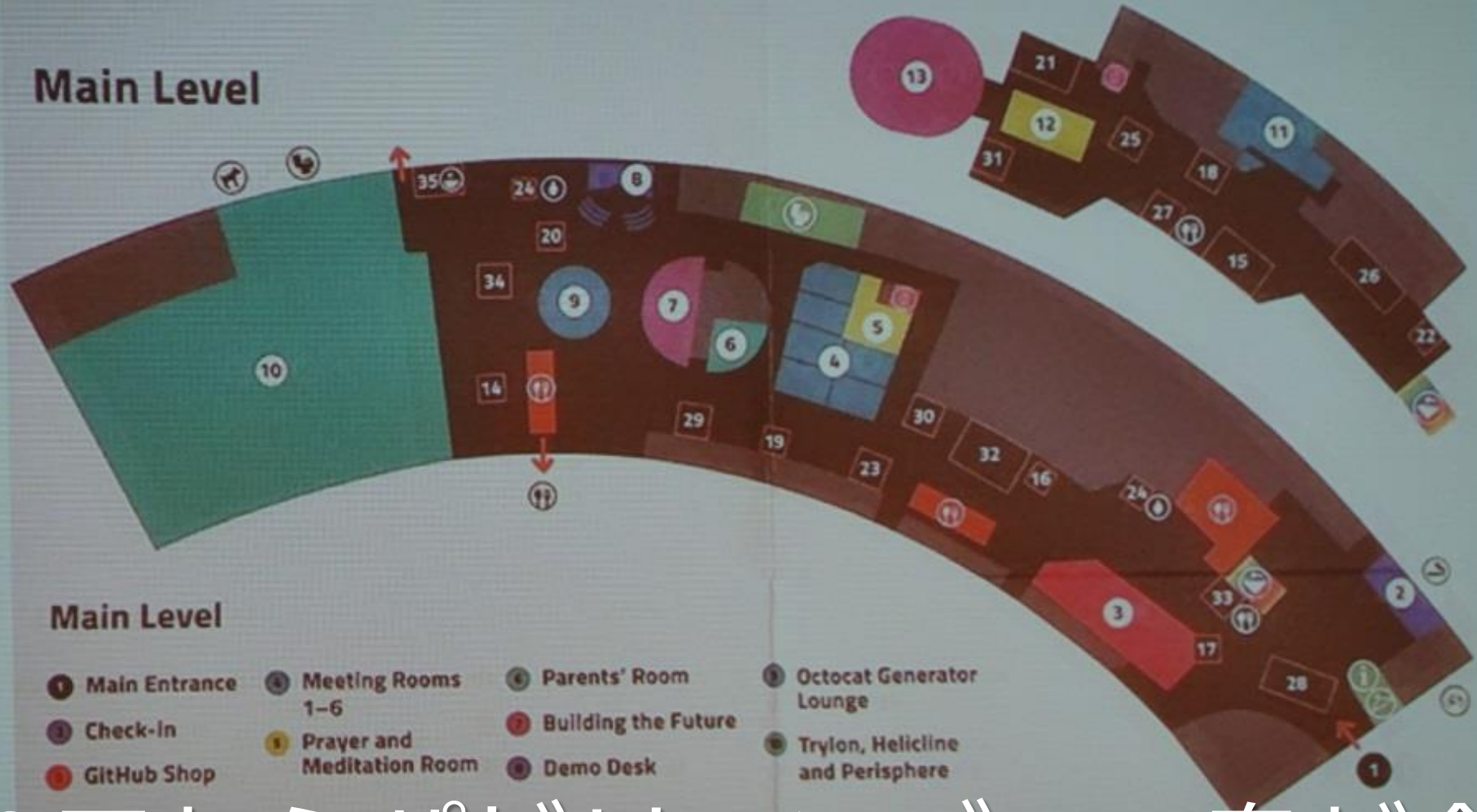


会場の形状が特殊

Where are you going?

Mezzanine

Main Level



入り口からパビリオンブース奥が会場



Engineerのアクティビティを表すのは草である。Connet機能により
github.com githubエンタープライズ間で草が共有



「インナーソース」[1]という考えで、企業内で活動している会社が多数ある。NASA,アメリカン航空。
「インナーソース」とは社内で人事の枠を超えて、ソースを共有し各エンジニアが他のプロジェクトのコードにPRを送り相互に開発する。オープンソースの考えや、活動をFWの内側で実施しているイメージ。
その中核にはGitHubが使われている。



First off, thanks for stopping by! The InnerSource community at American Airlines is passionate about building tech to improve our development and work experience. By creating guidance, tools (apps and libraries), programs, libraries, frameworks, and services to help us work efficiently and effectively, we are able to deliver better solutions to our customers as fast as possible.

If you are reading this, then you're likely interested in contributing to an InnerSource and/or code source project. We're excited about your contribution! Please take a moment to read our InnerSource Code of Conduct and Policy.

Once you're ready to get started, take a look at our Community Projects below or reach out to [@InnerSourceTeam](#) in the InnerSource channel on Slack for help!

So... What is InnerSource?

The primary goal of InnerSource at American Airlines is to provide our employees with a place to learn about and share new tech, learn more about best practices for code and development through deployment, and to provide our employees with tools to make their jobs easier and more enjoyable.

Community Projects

The list of projects below does not represent all InnerSource projects at American Airlines, but rather a list of projects which have expressed interest in community contribution and have met the requirements set forth in the InnerSource Policy. Ask yourself:

- Are you using a tool or app to help with making your job easier?
- Is it open? If so, are you looking for contributors? If so, would you like to help others learn about it?
- Is it a library? If so, are you looking for contributors? If so, would you like to help others learn about it?

GitHub Univ 参加者によるパネルディスカッション




石田晋哉
株式会社デンソー



myoctocat.com/
shimacat

GitHubとの関わり	個人的に利用
GitHub Universeは	初参加
GitHub Universeの感想	

大平哲也
株式会社ZOZOテクノロジーズ



The State of the Octoverse

- 開発者 3100万人
- Organization 210万
- リポジトリ 9600万
- Pull Request 2億

荒川裕紀
株式会社リクルートホールディングス



myoctocat.com/
yocat

GitHubとの関わり	バージョン2になる前から弊社に導入した経験あり。個人でも有料アカウントを使っています。
GitHub Universeは	全然初めてです！
GitHub Universeの感想	様々なテック系カンファレンスに参加させていただいていますが、本当に、セッション、ゲスト、キーノートの内容、ブース、空間デザインどれも素晴らしいと感じました。

松原陸
NTTコミュニケーションズ



myoctocat.com/
matsubara

GitHubとの関わり	の利用が目的使い始めました。
GitHub Universeは	初参加
GitHub Universeの感想	GitHubの最新機能やGHOpsに焦点がいくイベントだと思っていましたが、それだけではなくソフトウェア開発コミュニティの成長に貢献したいという意気込みを感じたイベントでした。GitHub Connectのコンセプト、Lab、Octoverseなどでしたが、後者の開発者の点ではなく、ソフトウェア開発者から、GitHubがさらに社

感想

●最後に

基本的にGitHubという会社が個人的には好きである。なぜかというとなんて膨大なソースコードを書いているにも関わらず実際に役にたったり、誰かに褒められたりすることは正直そんなにないことが多く、プログラマは基本的には影の仕事なのであるが、GitHubはそんなプログラマの成果を草という形で日々見守ってくれているツールであり大変ありがたい。また企業風土として常に一人のエンジニア、プログラマを主役として評価し、世界にイノベーションを起こしていけるのは世の中のプログラマたちであるという姿勢をとっている。

今回のGitHub Actions の登場でこれまでのソースコードのホスティングサービスとしてのGitHubからプロダクトのインテグレーションを実施するとこまで一気通貫でサービスを提供することが可能になり大きな一歩である

自分の業務範囲に見てみると、Dev/OpsやCI/CDといったワーディングで一括りにされることが多いこの手のサービスであるが、実際に自分の業務の中でCI/CDをどのような導入もしくは、自分の業務のワークフローとはなにか？そもそもワークフローを定義可能な業務なのかという点について、深く考える機械となった。基本的にこの手のものはどちらかと言うと、定常的なアプリケーションを出しているサービスや、Webなどのどちらかというフロントエンドエンジニアおよび、アプリケーションエンジニアの人たちに恩恵があるものであって、機械学習のサーバーサイドのアプリケーションを開発したり、精度をみてプログラムをtry and error でなおしていくような営みのワークフローとはどうあるべきか？ このような業務でCI/CDとはどう定義されるのか？を考えていく必要があるように思う。

ちなみに、インナーソースの考えはすばらしいが日本企業で実施するのはかなり難しいと思った。
(組織感の壁があつい、ややもすれば、餅は餅屋ということが好きな人が多いように思う。)